

海軍公報 (部内限) 第四千四百六十號

昭和十八年八月七日(土)  
海軍大臣官房

○令達

官房備第一四四號ノ五

昭和十七年官房第七八九四號ニ依ル第二十二海軍軍用郵便所ハ昭和十八年七月二十六日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十八年七月二十六日

海軍大臣

(参照) 五月二十一日本報

官房軍機密第九三九號

昭和十八年官房教機密第一八四號ニ依リ青島方面特別根據地隊ニ於テ實施スル見習尉官第一期實務練習ノ爲配員セラレタル首席兵科將校ハ教育ノ準備及實施竝ニ同教育ニ從事スル者及見習尉官ノ身上取扱ニ關シ所轄長ニ準ジ服務セシムルコトヲ得

昭和十八年八月五日

海軍大臣

○通牒

海人機密第一號ノ三五五

昭和十八年八月七日

海軍省人事局長  
海軍省教育局長

各鎮守府、艦隊、警備府參謀長  
海軍練習聯合航空總隊參謀長  
關係各所 轉長 殿

昭和十八年六月一日以降充員召集ノ第一補充兵、第二補充兵及第二國民兵ニ對スル人事取扱等ニ關スル件申進ノ件申進ノ本年海人機密第一號ノ一九二ニ依ル首題ノ件申進ノ通改メラレ候

第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號トシ以下順次繰上グ

(昭和十八年五月二十九日海軍公報(部内限)参照)

○辭令

海軍公報(部内限) 第四千四百六十號 昭和十八年八月七日

海軍大佐 小倉 眞二  
「タイ」國駐在員監督ヲ命ス(七月五日海軍省)

海軍中佐 丸山 範三

昭和十八年七月三十一日乃至八月六日施行ノ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用學術試驗臨時委員ヲ命ス(七月五日同)

海軍中佐 宮下 省吾

船舶應急處理委員會副委員ヲ命ス

船舶應急處理委員會幹事ヲ命ス(八月同)

海軍主計中佐 柴倉 壽夫

第五課勤務ヲ命ス

海軍主計少佐 村岡 達志

第一課勤務ヲ命ス(七月五日海軍省經理局)

同 阿比留 幸助

第五課勤務ヲ命ス(八月同)

○ 雜 款

○事務所撤去

對島艦裝員事務所ハ七月二十八日撤去セリ

驅逐艦早波艦裝員事務所ハ七月三十一日撤去セリ

伊號第四十潜水艦裝員事務所ハ七月三十一日撤去セリ

藤波艦裝員事務所ハ七月三十一日撤去セリ

六連艦裝員事務所ハ七月三十一日撤去セリ

○本日普通公報發行セズ

(限 部 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

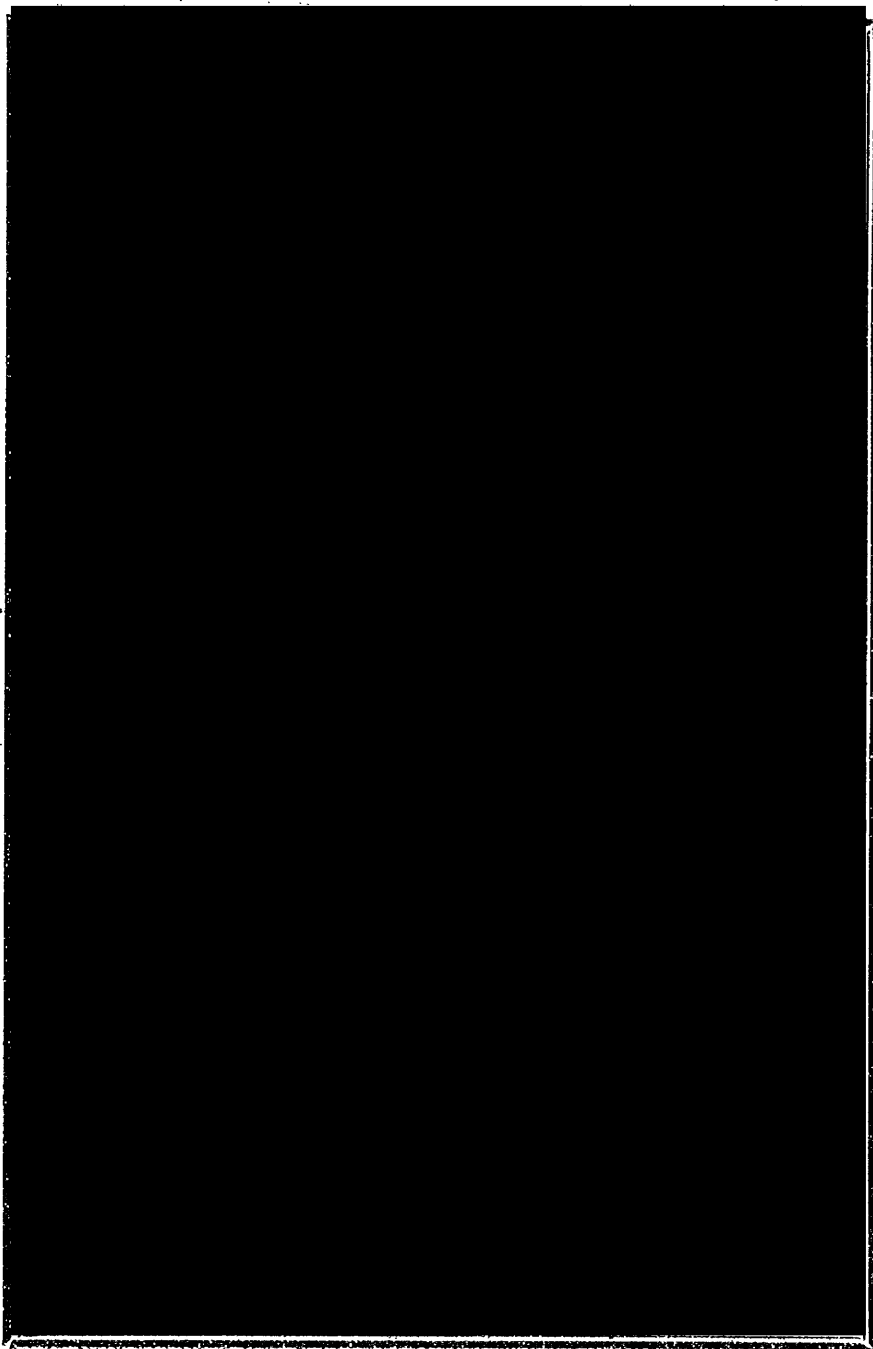
○ 懲 罰

昭和十八年八月七日(土)  
海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 號外

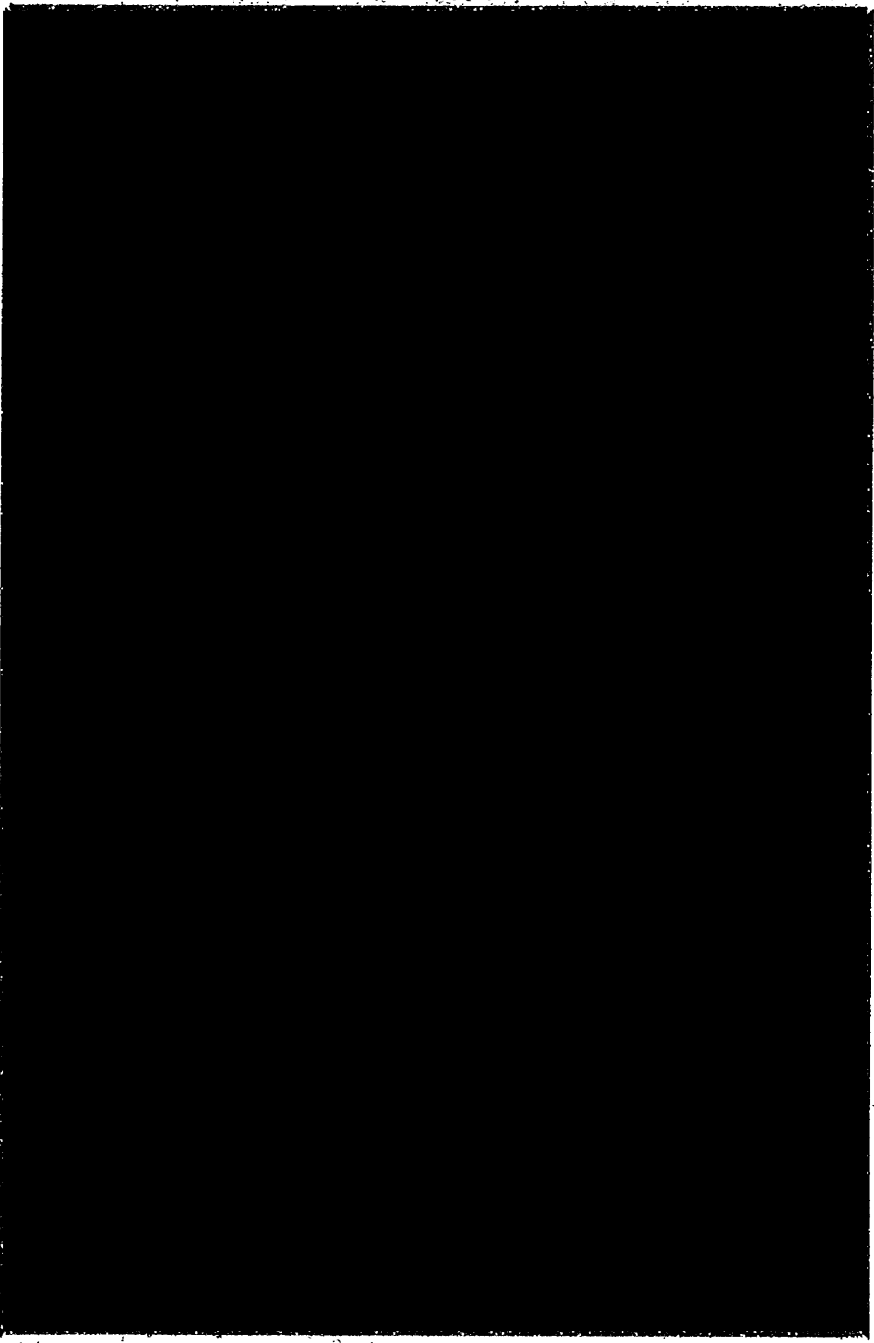
1408

海軍公報 (部内限) 號外



1409

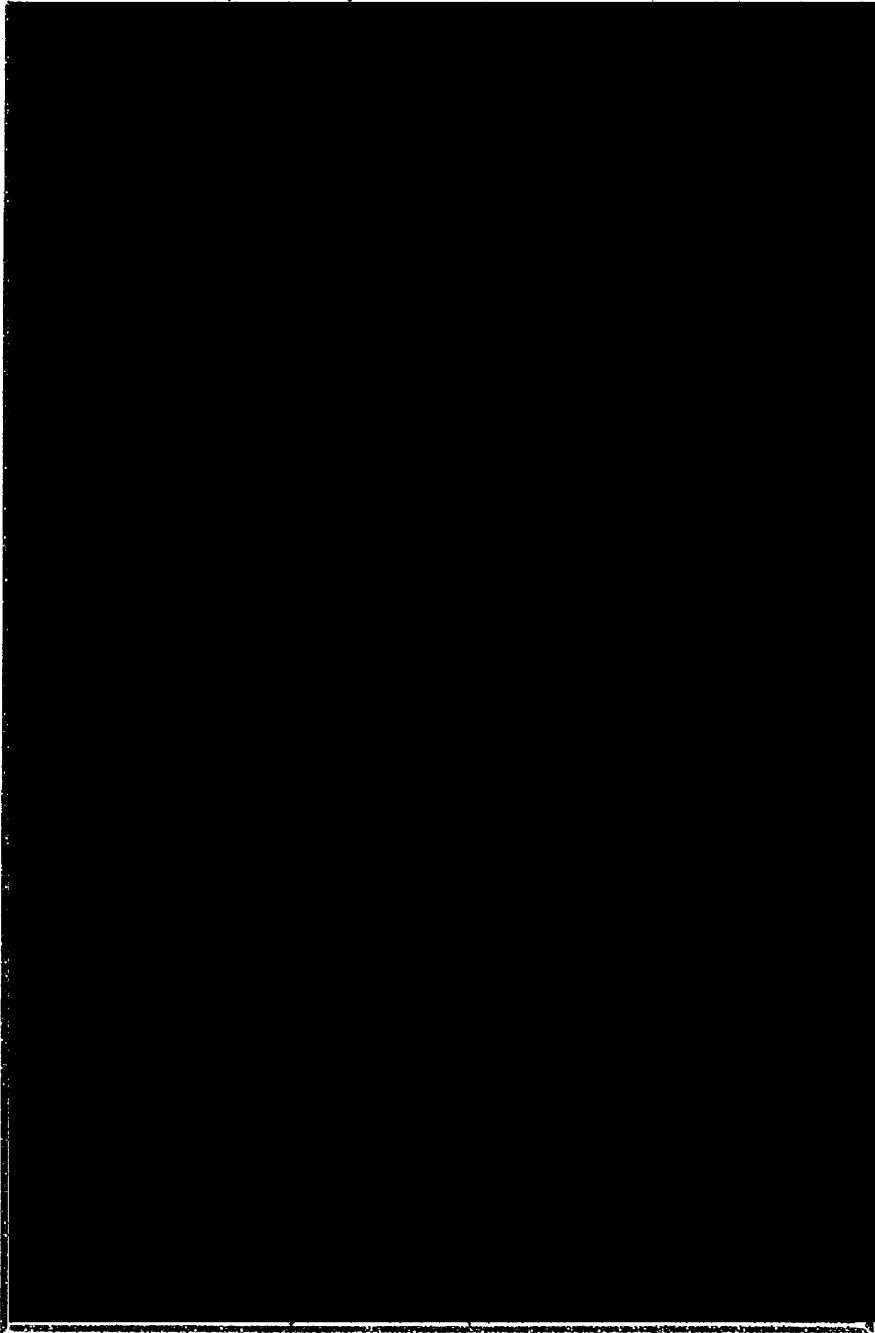
海軍公報 (部内限) 號外



三

1410

海軍公報  
（部内限）  
號外



四

1411

海軍公報 (部内限) 號外

五

1412

海軍公報 (部内限) 號外

六

1413



海軍公報 (部内限) 號外

七

1414

海軍公報 (部内限) 號外

八

1415

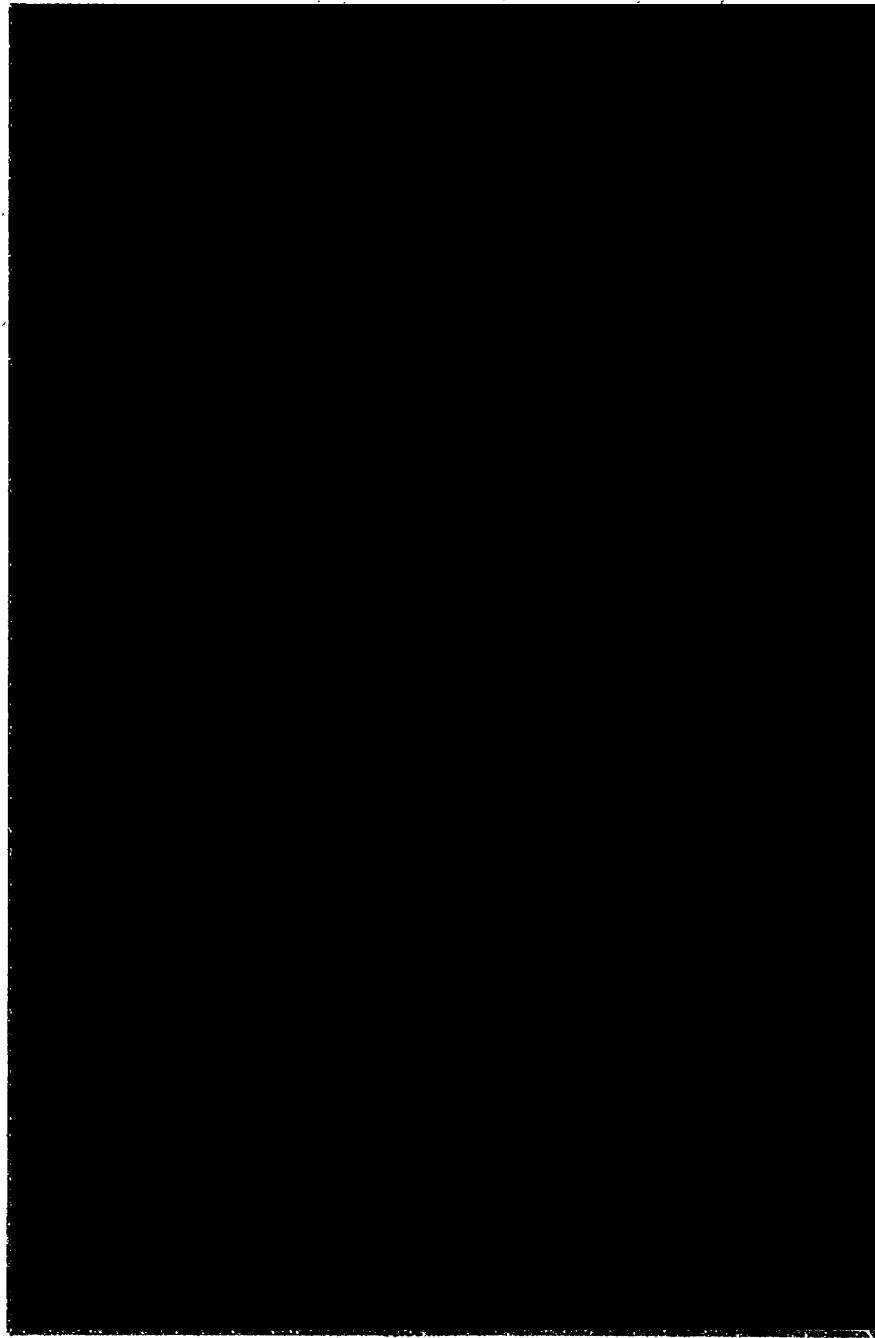
海軍公報 (部内限) 號外



九

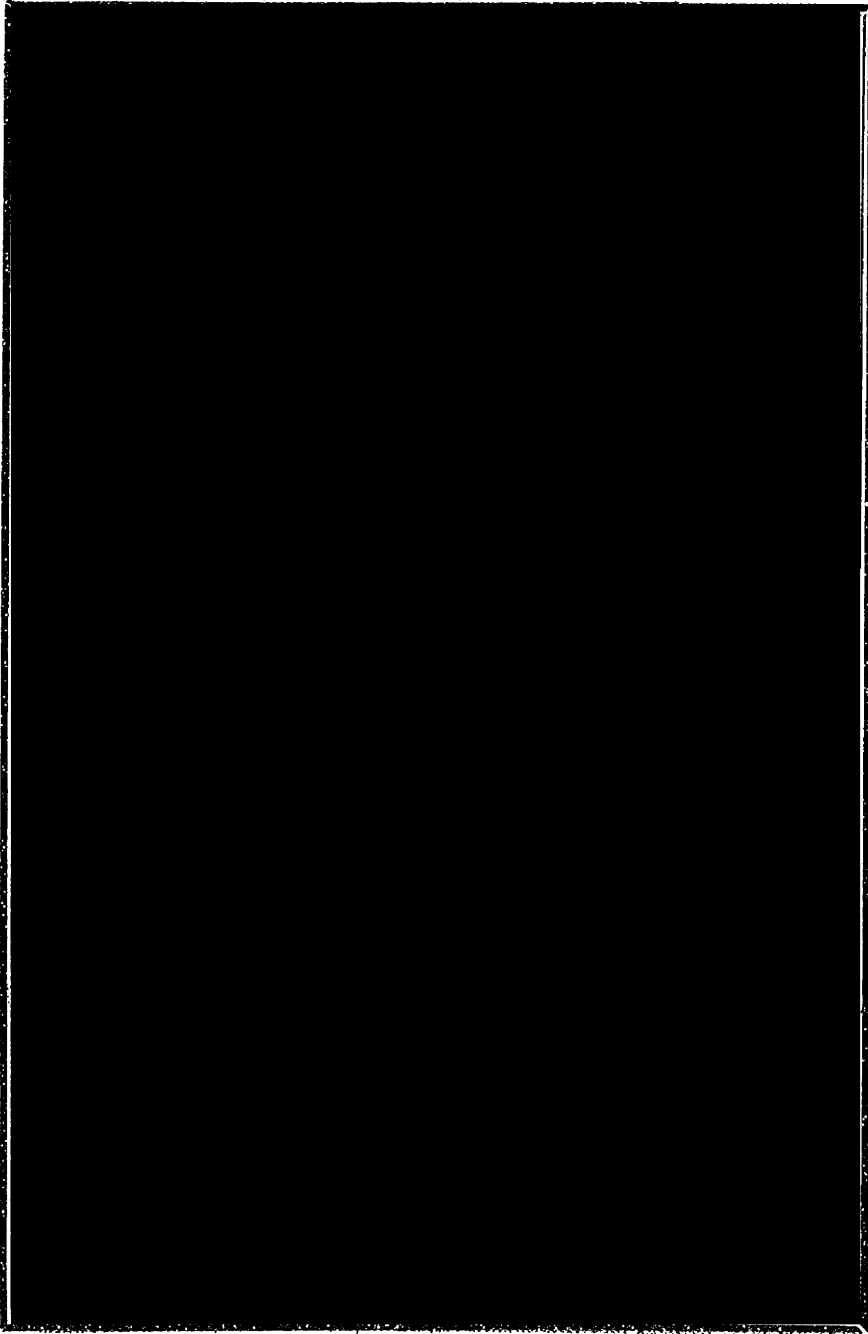
1416

海軍公報 (部内限) 號外



1417

海軍公報  
(部内限)  
號外



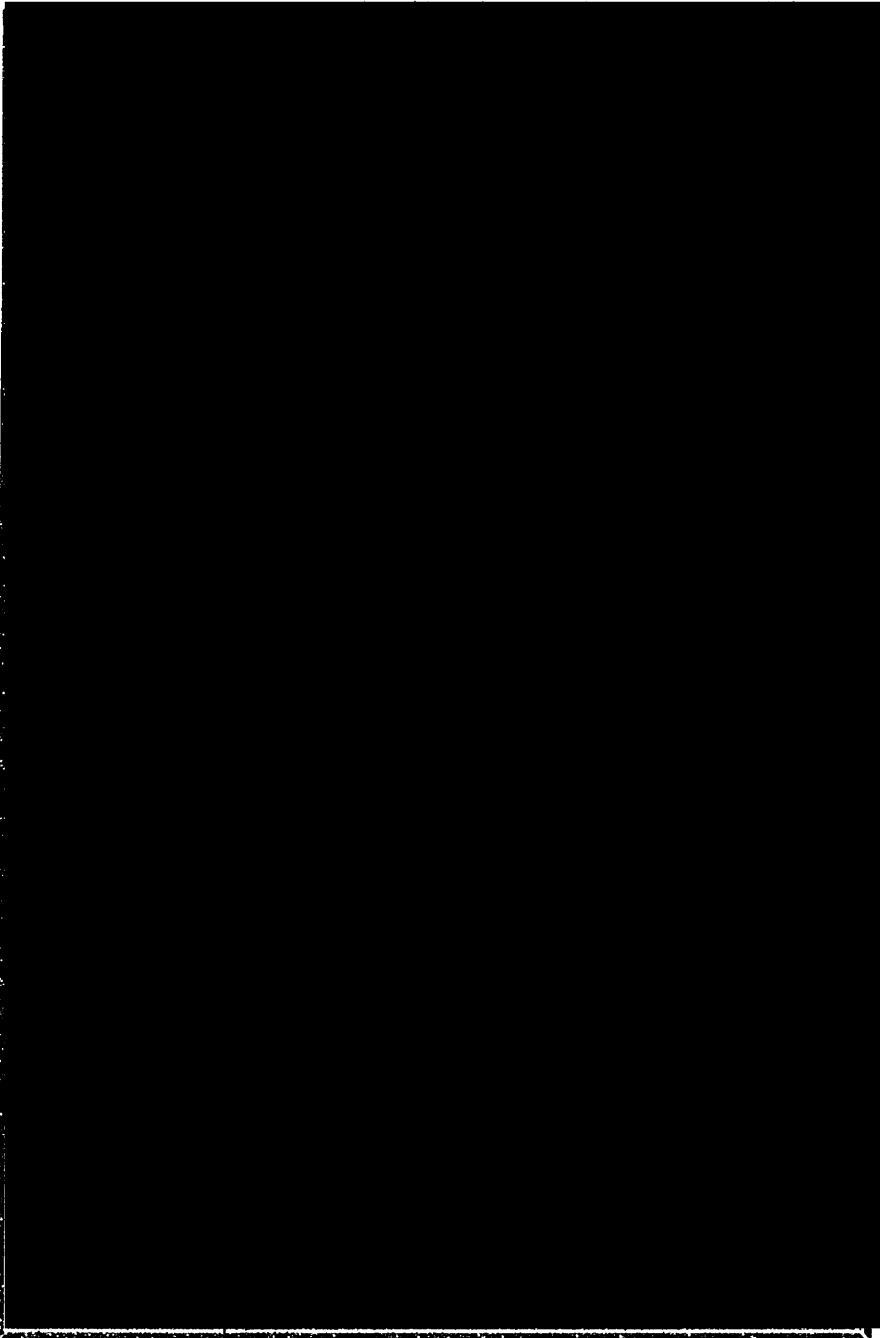
1418

海軍公報 (部内限) 號外

三三

1419

海軍公報 (部内限) 號外



一三

1420

海軍公報 (部内限) 號外

一四

1421



海軍公報 (部内限) 號外

五

1422

海軍公報 (部内限) 號外

一六

1423

海軍公報 (部内限) 號外

一七

1424

海軍公報 (部内限) 號外

一八

1425

海軍公報 (部内限) 號外

一九

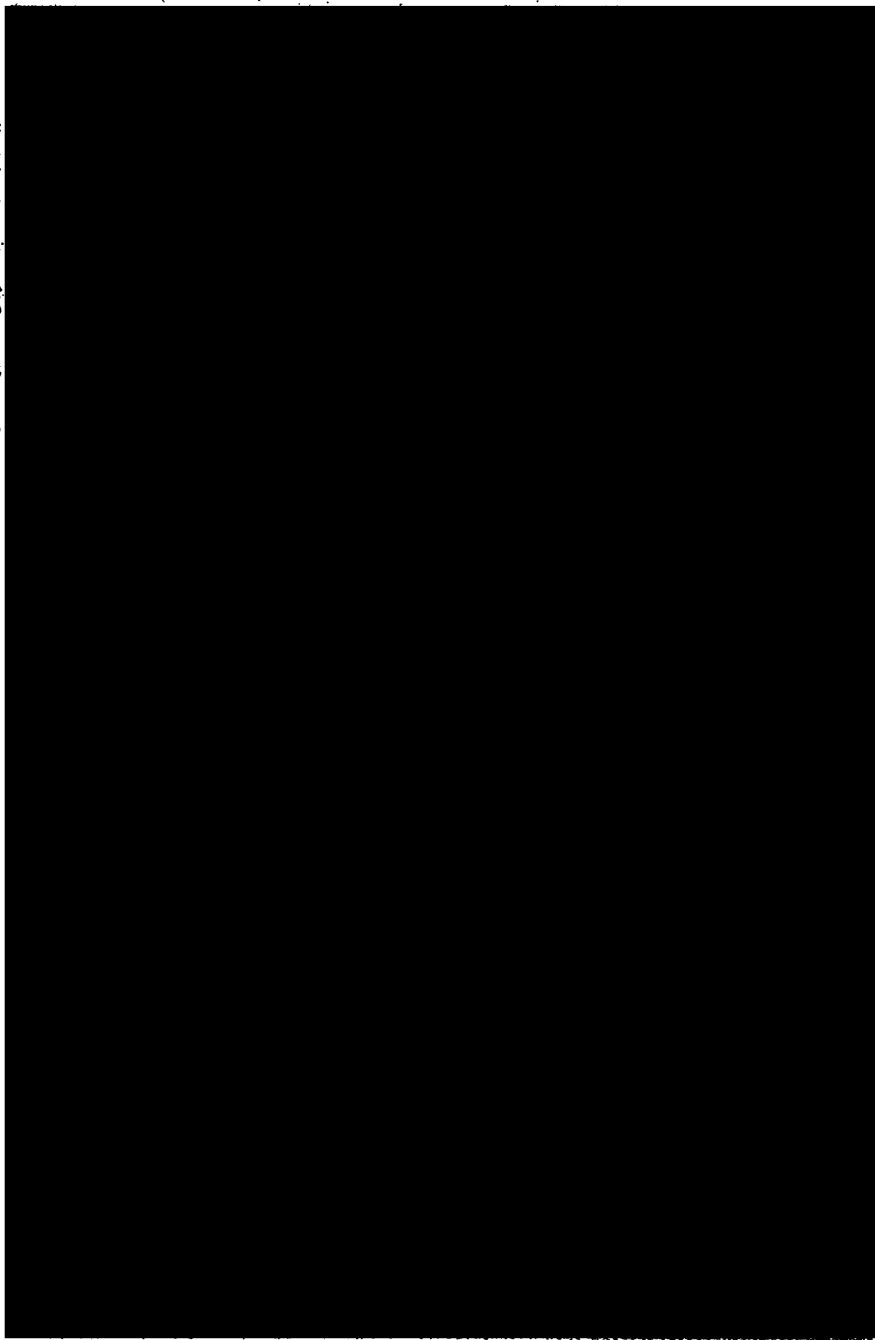
1426

海軍公報 (部内限) 號外

二〇

1427

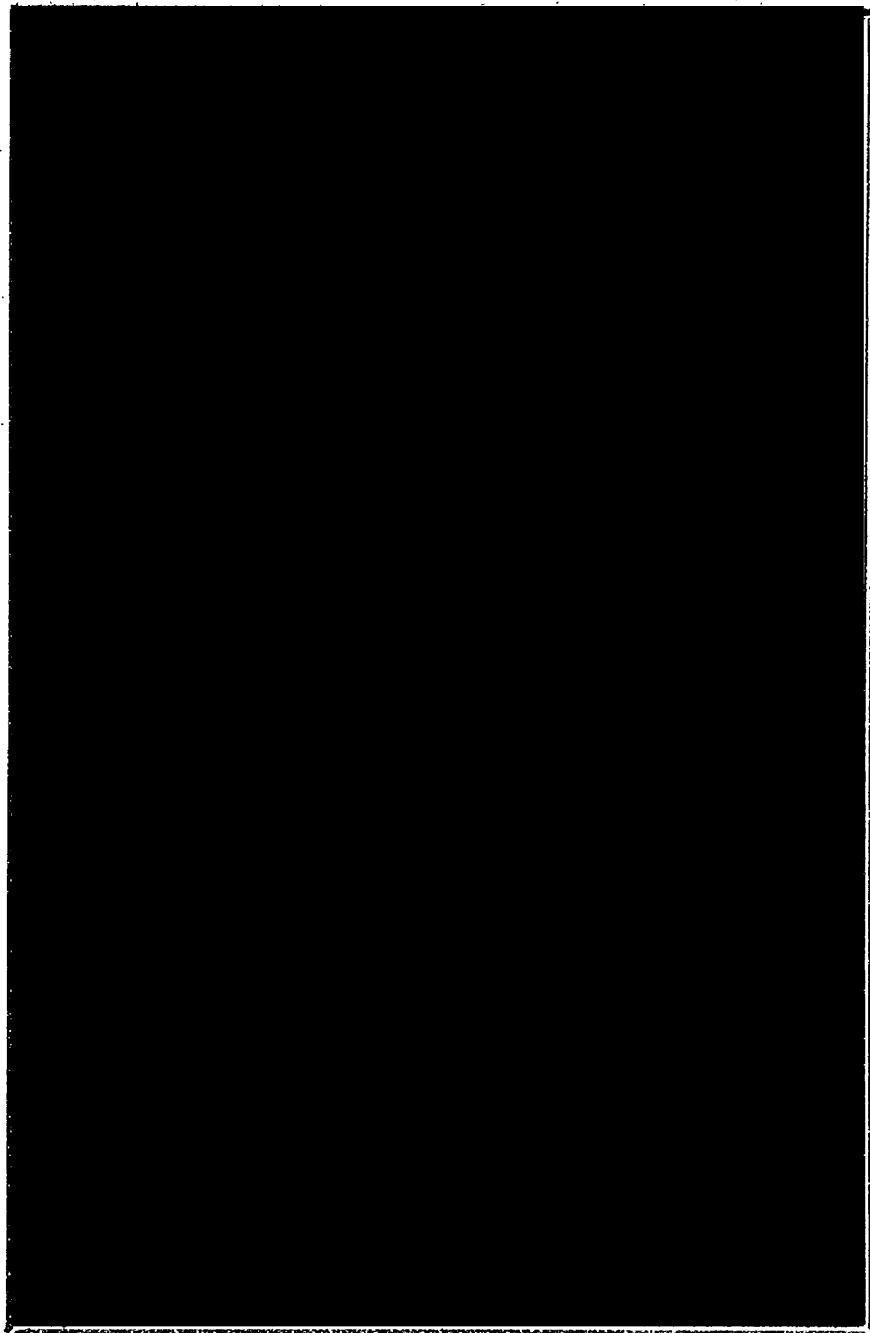
海軍公報  
(部内限)  
號外



1428

海軍公報 (部内限) 號外

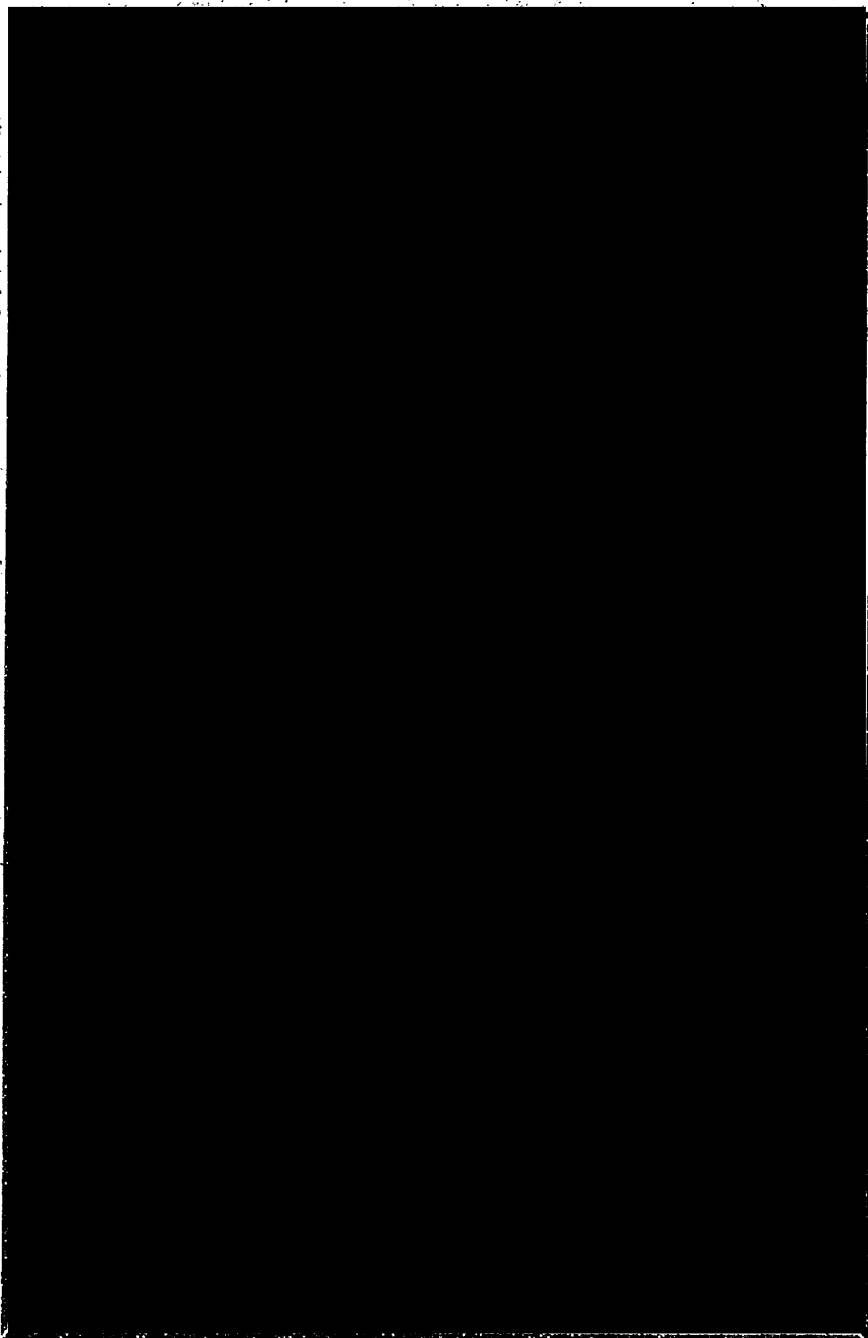
三三



1429



海軍公報 (部内限) 號外



二三

1430

海軍公報 (部内限) 號外

二四

1431

海軍公報 (部内限) 號外

二五

1432

海軍公報 (部内限) 號外

二六

1433

海軍公報 (部内限) 號外

二七

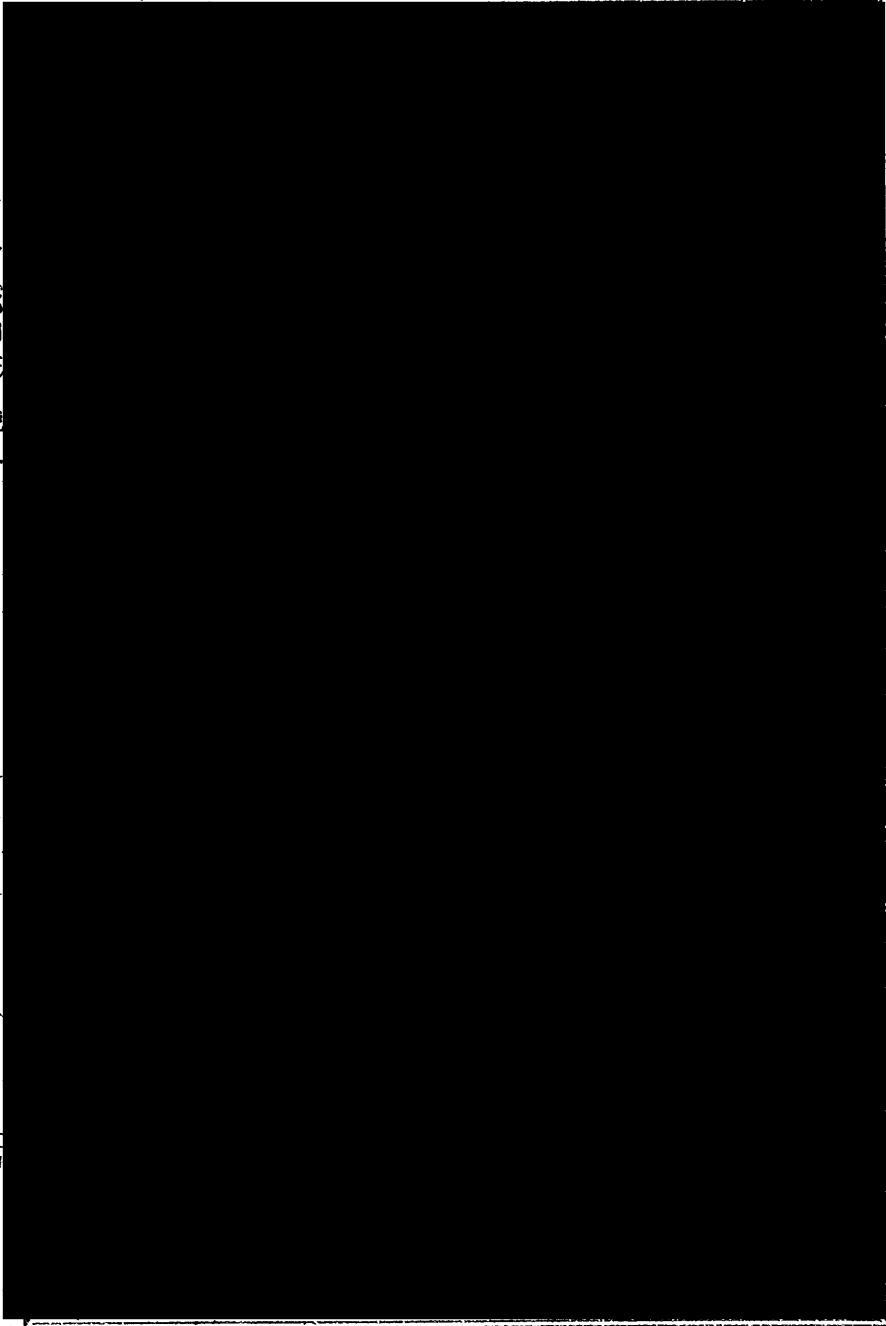
1434

海軍公報  
(部内限)  
號外

二八

1435

海軍公報 (部内限) 號外



1436

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十八年八月七日 (土)

○郵便物發送先通知 (宛先ハ下段ノ通記載ノコト)

○艦船ノ部

一 第二水雷戰隊司令部

一 武藏司令部、武藏、野分

一 伊良湖

○陸上ノ部

一 横鎮第二特陸

一 第五防空隊

一 第一〇三設營隊

横須賀局氣付 長良司令部 (軍事郵便)

同 武藏司令部、武藏、野分 (軍事郵便)

吳局氣付 伊良湖 (軍事郵便)

横須賀局氣付 「ウ六八 ヲ六六」

同 「ウ壹壹貳 ヲ貳六壹」

吳局氣付 「セ貳六 セ七壹」

當武官宛書類ハ佛印特派使節隨員 (サイゴン海軍隨員) 氣付ニテ送付ヲ得度

(ビルマ在勤帝國大使館附武官)

海軍公報 (部内限) 號外

三九

1437



(限 部 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千四百六十一號

海軍大臣官房

昭和十八年八月九日(月)

## ○令 達

左記ノ通承認致候

記

官房人機密第三九二號  
本年八月五日現在千島方面特別根據地隊職員タル者ハ  
特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ千島  
方面根據地隊ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得

昭和十八年八月五日

海軍大臣

## ○通 牒

經物第一二九號

昭和十八年八月七日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件

通知

昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件

海軍公報(部内限) 第四千四百六十一號

昭和十八年八月九日

八三三

會社名	所 在 地
足立鋼管株式會社	川口市元郷町三ノ二二七四
株式會社宇野澤組鐵工	東京都澁谷區山下町六二
植松木材株式會社	臺北市北門町七
宇部興産株式會社	宇部市大字小串一九七六ノ一
株式會社小川鐵工所	神奈川縣鎌倉郡大船町小袋谷二六六
小野平(小野平商店)助	名古屋市中區東瓦町一三三
有限會社大原鐵工所	長岡市城岡町二三
株式會社河上機械製作所	東京都芝區新橋三ノ二
鄉原正(鄉原精機工作所)	大阪市東成區深江中一ノ一六
京濱鋼鐵工業株式會社	東京都蒲田區仲六郷三ノ二四ノ三

芝浦造船鐵工株式會社	東京都芝區高濱町五ノ九	○ 辭令	臺北州公立小學校訓導 後藤 春治
株式會社昭和ゲーシ製 作所	八 名古屋市中川區中出町一ノ三	海南警備府附ヲ免ス <small>(五ノ九海軍省)</small>	臺灣總督府屬 島倉 正明
昭和工機株式會社	東京都日本橋區通一ノ五(東 海ビルディング内)	海南警備府ヲ免ス <small>(十六日同)</small>	那須 正典
角 田 嘉 正 (角田研磨機製作所)	川口市原町三七二九	徵用中自今年額千五百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト ス <small>(二十六日同)</small>	川原 竹藏
東京動力機械製造株式 會社	東京都目黒區清水町四二二	徵用中自今年額千八百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待 遇トス <small>(十七日同)</small>	
東北船渠鐵工株式會社	鹽釜市字杉ノ入表七二ノ四		
東邦自動車工業株式會 社	東京都本郷區靜岡町三一		
戸根無線株式會社	大阪府東區放出町三七二		
株式會社日曹製作所	七 東京都麴町區大手町二ノ八ノ		
株式會社長谷川ポン 工業所	大阪府東淀川區十三西之町五 ノ七	○ 雜 款	
不二工業株式會社	名古屋府南區忠道町二八	○ 正誤	
マルニ木工株式會社	廣島縣佐伯郡平良村大字下平 良一三一六	昭和十八年七月六日附公報(部内限) 辭令欄六九九頁 上段九行目近藤義雄ノ頭書ノ報酬額「千九百八拾圓」 ハ「千四百七拾圓」ノ誤	
村本土木株式會社	二 西宮市下瓦林字豐年四二一ノ	○ 本日暗送公報第五號發行ス	
村 瀬 善 一	萩市大字江向二〇三		

# 海軍公報

(部内限) 第四千四百六十二號

昭和十八年八月十日(火)

海軍大臣官房

## ○令 達

官房經第八五五號

昭和十七年官房第四五九二號中左ノ通改正ス

長 昭和十八年八月七日

海軍大臣

第一條第二項ヲ削ル

第二條中「外戰部隊ニ屬スル艦船又ハ海軍戰時特例給與規則第一條ニ掲グル地域ニ在ル部隊其ノ他ノ各部ニ赴任又ハ轉勤スル者ハ前條第一項」ヲ「戰地ニ在ル艦船部隊其ノ他ノ各部又ハ戰地ニ派遣セラルル目的ヲ以テ編成セラレタル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ赴任又ハ轉勤スル者ハ第一條」ニ、第三條中「第一條第二項」ヲ「第二條」ニ、「第一條第一項」ヲ「第一條」ニ改メ第二條ヲ第三條トシ以下順次繰下ゲ第一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二條 前條ノ規定ニ該當スル者又ハ海軍戰時特例

給與規則第一條ニ掲グル地域(以下戰地ト稱ス)

ニ在ル艦船部隊其ノ他ノ各部若ハ戰地ニ派遣セラ  
ルル目的ヲ以テ編成セラレタル艦船部隊其ノ他ノ  
各部ニ赴任又ハ轉勤スル者新勤務地ニ家族ヲ移轉  
シ難キ事由アルトキハ所轄長ハ本人ノ願出ニ依リ  
家族移轉料ノ支給ヲ停止スルコトヲ得

參照 昭和十七年七月二十八日海軍公報(部内限)

官房人機密第三九九號

昭和十四年官房機密第六五八九號中左ノ通改正ス

昭和十八年八月九日

海軍大臣

第十號中「徵兵」ノ下ニ「又ハ服役延期及應召(補充兵及國民兵ニ在リテハ基礎教育終了者)中ノ者」ヲ、同號(五)末尾ニ「但シ素質優秀ニシテ陸上普通勤務ニ適スト認ムル者ハ本人ノ適合スル特技兵講習員ニ選拔ス此ノ場合ハ選拔表身體欄ニ其ノ旨附記スルモノトス」

海軍公報(部内限) 第四千四百六十二號 昭和十八年八月十日

八三五

ヲ加へ同號(四)ヲ左ノ如ク改ム、  
(四) 憲召員ニ在リテハ講習ヲ終了シタル日ヨリ二年  
以上ノ服役期間ヲ有スル者

(參照) 昭和十四年官房機密第六五八九號ハ各種特技兵臨時講習並  
ニ人事取扱ニ關スル件ナリ(内令提要卷一、六七〇ノ一)

官房機密第四九三號

當分ノ間千島諸島ニ勤務スル者等ノ給與ニ關シ左ノ通  
定ム

昭和十八年八月九日

海軍大臣

一 糧食

千島諸島ニ在ル海軍ノ各部ニ勤務(出張滞在ヲ含ム)  
スル軍人及軍屬(給與令第七十九條ノ二及第八十條  
ニ依リ食料又ハ糧食ノ支給ヲ受クル者ヲ除ク)並ニ  
囑託員、工員及同地ニ於テ使役セラルル人夫ニハ其  
ノ期間一食三十錢ノ金額以內ニ於テ適宜ノ糧食ヲ官  
給ス

前項ノ糧食品ノ供給及整理ニ關シテハ海軍省軍需局  
長及海軍省經理局長ヲシテ通牒セシム

二 旅費

千島諸島ニ出張スル軍人、軍屬、囑託員及工員ニ支  
給スル旅費ハ指定滞在地著ノ當日ヨリ起算シ十一日  
目ヨリ其ノ地發程ノ前日迄別表ニ依リ旅費日額ヲ支  
給シ日當、宿泊料及食卓料ハ之ヲ支給セズ

同一地ニ滞在中一時他ノ地ニ旅行シタル場合ニ於テ  
ハ前項ノ期間ハ前後ノ日數ヲ通算ス但シ引續キ滞在  
地ニ在ラザルコト三十日ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在  
ラズ

本令施行ノ際現ニ滞在中ノ者ニ在リテハ前二項ノ期  
間ノ計算ニ付テハ本令施行前ノ滞在日數ヲ通算ス

附則

本令ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ適用ス

(別表添)

○ 通牒

醫第七四九號

昭和十八年八月六日

海軍省人事局長  
海軍省醫務局長

横須賀、吳(海軍人事部長)  
佐世保、舞鶴(鎮守府軍醫長) 殿

徵募ニ關スル件通牒

徵募身體検査ニ當リテハ國民體力法ニ依ル體力手帳ヲ  
持參セシメ検査實施上ノ參考ト爲ス様準備相成度

軍需機密糧第一一二號

昭和十八年八月七日

海軍省軍需局長

海軍省經理局長

關係廳長殿

千島諸島ニ勤務スル者等ニ給與スル糧食  
品供給及整理ニ關スル件通牒

官房機密第四九三號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處  
理相成度

記

一 供給元

大湊海軍軍需部、同幌莚支部

二 供給手續及整理

(イ) 糧食ノ供給ヲ受クル者ノ所屬海軍工廠、海軍航  
空廠、海軍建築部其ノ他各部ヨリノ請求ニ依リ供  
給スルモノトス

(ロ) 供給元ハ供給ノ都度糧食品領收票ヲ徵シ幌莚支

部ニ在リテハ其ノ寫ヲ大湊海軍軍需部ニ送付スル  
モノトス

(ハ) 大湊海軍軍需部ハ毎月其ノ前月分供給量(幌莚  
支部ニ於テ供給ノ分ヲ含ム)ヲ取纏メ供給集計表

(別紙様式)ヲ作製シ海軍省軍需局、供給先廳及其  
ノ主務部局(海軍艦政本部、海軍航空本部、海軍

施設本部等)ニ各一通ヲ送付スルモノトス

(ニ) 供給元ハ消耗拂トシテ整理シ供給先廳ハ適宜帳簿  
ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明カニ爲シ置クモノトス

(ホ) 供給單價ハ時價ヲ參酌シ大湊海軍軍需部ニ於テ  
之ヲ定ムルモノトス

豫算移用

三 豫算移用

供給先廳ノ主務部局ハ前號(ハ)ノ供給集計表ニ依リ供  
給金額ニ相當スル豫算ヲ海軍省軍需局ニ移用スルモ  
ノトス

(別紙添)

海人機密第一號ノ三五八

昭和十八年八月九日

海軍省軍務局長

海軍省人事局長

關係各廳長殿

海軍省軍務局長

海軍省人事局長

海軍公報(部内限)第四千四百六十二號

昭和十八年八月十日

八三七

海軍練習聯合航空總隊ニ屬スル下士官ノ  
特殊任用進級ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シ海軍武官任用令第二十二條ノ三及海軍  
武官進級令第十六條ニ依ル獨立部隊ノ規定ハ海軍練習  
聯合航空總隊ニ適用スル義ト了知相成度

經豫機密第三號ノ七八

昭和十八年八月九日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々  
之ガ事務ヲ取扱フコトト相成候

記

ジャワ 「マラン」  
緬甸 「ラシオ」、「タウンジ」

○ 辭令

東京海軍通信隊附ヲ命ス(海軍省)  
機械工員 田 中 彌

海軍航空技術廠附ヲ命ス(海軍省)  
海軍技手 奥村 鏡男

鐵道官 高橋 一朗

鐵道官補 宮下 新一

同 土田 賢

同 三輪 治一

同 青山 信吉

鐵道手 坂本 啓一

同 中島 金平

鐵道省雇 稻葉 仁

同 加藤 米一

同 村實 知隆

同 村田 善作

南西方面海軍民政府附ヲ命ス(海軍省)

通信事務官 村田 善作

第三十五海軍軍用郵便所長ヲ命ス

通信書記 牧野 榮

通信書記補 後藤 進

第三十五海軍軍用郵便所員ヲ命ス

遞信局事務官 今井 徹二

第三海軍軍用郵便所長ヲ命ス(以上海軍省)

事務員 村澤 武男

(各通) 同 大澤 百畝  
同 服部 清志

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(ハ明同)

(各通) 遞信局事務官 藤 枝 旗 一 郎  
通信書記 中 山 多 喜 夫

第三通信隊附ヲ免シ第八通信隊附ヲ命ス  
同 内 田 明  
通信書記 布 引 八 郎

(各通) 同 岩 本 巖  
同 畑 和 夫

第三通信隊附ヲ免シ第二十一通信隊附ヲ命ス  
同 德 谷 榮 治  
通信書記補 鈴 木 令 一

東京海軍通信隊附ヲ免シ第八通信隊附ヲ命ス  
通信書記 佐 藤 高 二  
(各通) 同 今 川 徹 郎

東京海軍通信隊附ヲ免シ第二十一通信隊附ヲ命ス  
通信書記補 長 田 宏

東京海軍通信隊附ヲ免シ上海海軍特別陸戰隊附ヲ命ス

通信書記 横 山 仁 作  
上海海軍特別陸戰隊附ヲ免シ第二十一通信隊附ヲ命ス(以上ハ明同)

臺灣公立公學校訓導 伊 藤 久 之  
海南警備府附ヲ免ス(ハ明同)

海軍主計中尉 高 木 正 治  
セレベス民政部メナド支部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス  
同 工 藤 敏  
右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上ハ明同) 支 出 官 海軍省經理局長)

○ 雜 款

○事務開始  
第二百二十一設營隊ハ七月二十五日佐世保海軍建築部内ニ於テ事務ヲ開始セリ

海軍技術研究所音響研究部ハ八月一日沼津市下香貫ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去  
第二七號掃海艇艦裝員事務所ハ七月三十日撤去セリ

海軍公報(部内限) 第四千四百六十二號

昭和十八年八月十日

八三九

第三十三號掃海艇艦裝員事務所ハ七月三十日撤去セリ

○訂正

八月三日附公報(部内限) 辭令欄八一七頁上段三行目

「新田目直壽」ノ辭令文中「事務ヲ囑託ス」(報酬如故)

ハ「事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス」ニ訂正

○正誤

五月十日附公報(部内限) 辭令欄四三七頁下段二行目

「第二遣支艦隊」ハ「海南警備府」ノ誤

○本日普通公報發行セズ



(別表)

昭和 年 月 日

(昭和十八年八月十日海軍公報(部内限))

大湊海軍軍需部

海軍省軍需局  
供給先廳殿  
右ノ主務部局

昭和十八年軍需機密糧第一二號ニ依ル

糧食品供給集計表(月分)

供給先廳名	同上ノ主務部局名	品名	代價	記事

備考 品名欄ニ何々外何廉ノ如ク記載スルモノトス

別表

備考	日額		放 費 等 級
	乙	甲	
官ノ施設ニ起臥セシムルトキハ日額甲、官ノ施設ニ起臥セシメザルトキハ日額乙ヲ支給ス	九〇〇	七五〇	二 等
	其ノ他 三高等官 六〇〇	其ノ他 三高等官 五〇〇	三 等
	四三〇	三五〇	四 等
	三八〇	三〇〇	五 等
	列任 二等官 三六〇	列任 二等官 三〇〇	六 等
	二三〇	一七〇	七 等
	二〇〇	一五〇	八 等
	二〇〇	一五〇	九 等
	一五〇	一二〇	十 等

(昭和十八年八月十日海軍公報(部内限))

1447